

CHIKAMATSU NOW



近
松
門
左

人形浄瑠璃文楽『冥土の飛脚』
協力：人形浄瑠璃文案座
撮影：河原 久雄



衛
門

2022 ▶ 2023



【お問い合わせ】

(公財)尼崎市文化振興財団

〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通 2-7-16 TEL.06-6487-0910

主催／(公財)尼崎市文化振興財団 共催／尼崎市

<https://www.archaic.or.jp/>

※掲載内容については、主催者等の都合により変更となる場合がございます。
詳細については、各主催者にお問い合わせ下さい。

近松のまち、あまがさき

近松門左衛門と尼崎とのかかわりは、近松が大坂へ移住した頃までさかのぼります。近松は、大坂の舟問屋・尼崎屋吉右衛門宅に滞在しながら、船頭や行商人、旅人たちから全国各地の話を取材して作品を執筆したと伝えられています。

その舟問屋が、尼崎市久々知にある広濟寺を再興した住職の実家であったことから、近松は広濟寺の再興にも尽力し、1716(享保元)年には近松の母親の法要を広濟寺で行うなど、近松と広濟寺との深い縁が育まれていきました。広濟寺に眠る近松の墓は、今なお演劇関係者の訪問が絶えず、近年になってからは近松記念館の開館やモニュメントが設置されるなど、尼崎市全体で近松の貢献を称えています。

近松の里

JR尼崎駅より北へ約2キロメートルにある広濟寺、近松の墓、近松記念館、近松公園周辺を「近松の里」と名づけ、歴史と文化がふれあう魅力あるゾーンとして整備をしています。

1 近松公園

近松門左衛門の墓所(広濟寺)に隣接した回遊式日本庭園風の公園です。公園内には、近松門左衛門のブロンズ像があり、数多くの名作を残した近松門左衛門を偲ぶことができます。また、せせらぎや池を中心に園内を散策でき、春先からは満開の梅林や桜が楽しめるため、お花見の人でにぎわいます。

- 所在地/兵庫県尼崎市久々知1-4
- 料金/無料
- 駐車場/無し



2 近松記念館

1975(昭和50)年に開設、2008(平成20)年にリニューアルしました。資料室では、近松の過去帳、愛用の文机、手紙など近松ゆかりの資料約100点を展示しています。

- 所在地/尼崎市久々知1-4-38
- 開館時間/10:00~16:00
- 休館日/水曜日、第2日曜日(8/13~16、12/29~1/7)
- 料金/大人:200円 学生:150円 子ども:100円 団体割引あり
- 問い合わせ/TEL.06-6491-7555



3 広濟寺

日蓮宗の寺院で、957(天徳元)年に創建され、1714(正徳4)年に日昌上人によって再興されました。近松門左衛門の墓があることから、近松寺とも呼ばれ親しまれています。

- 所在地/尼崎市久々知1-4-38
- 拝観時間/7:00~18:00
- 問い合わせ/TEL.06-6491-0815



4 近松門左衛門の墓

広濟寺の境内にあり、高さ約48cmほどの緑泥片岩の自然石で表に近松と妻の戒名が、裏には没年月日が彫られています。1966(昭和41)年、国の史跡に指定されています。



近松の里へのアクセス

〔バス〕 いずれも停留所は阪神バス(尼崎市内線)「近松公園」下車すぐ
JR尼崎駅から 北口より阪神バス(尼崎市内線)①「阪急園田」行き、
②「阪急塚口」行き、または「阪急園田」行き乗車
阪急塚口駅から 南口より阪神バス(尼崎市内線)②「阪神杭瀬」行き乗車
阪急園田駅から 南口より阪神バス(尼崎市内線)①「阪神尼崎」行き乗車
阪神尼崎駅から 北口より阪神バス(尼崎市内線)①「阪急園田」行き、
②「阪急園田」行き乗車
〔徒歩〕 JR塚口駅から 東口より約15分

1 第20回 尼崎・近松杯グラウンド・ゴルフ交歓大会

日時 令和4年9月20日(火)9:00~
荒天時の予備 令和4年10月4日(火)

会場 ベイコム陸上競技場

- JR「尼崎」駅南出口より徒歩15分
- 阪神「尼崎」駅、阪急「塚口」駅から
阪神バス・阪急バスで「スポーツセンター」
下車すぐ

主催 尼崎グラウンド・ゴルフ協会

共催 尼崎ニュースポーツ連盟

後援 尼崎市、日本GG協会、兵庫県GG協会、
尼崎市教育委員会、尼崎市体育協会

参加料 2,000円

お問い合わせ 松原純二 TEL.080-4565-2211

誰もが楽しめる生涯スポーツ「グラウンド・ゴルフ」を通じ、近畿地区の日本グラウンド・ゴルフ協会加入会員との交流を行い、親睦・健康増進を図ります。



2 「さばえ近松文学賞~KOIBANA RETURNS」募集 ~それでも人は再び恋をする~

日時 令和4年10月1日(土)募集要項発表

会場 鯖江市立待公民館

- JR「鯖江」駅からタクシーで15分

主催 近松の里づくり事業推進会議

共催 鯖江市、鯖江市教育委員会、福井新聞、福井テレビ

お問い合わせ 立待公民館 浮山 TEL.0778-51-3376

「さばえ近松文学賞~KOIBANA RETURNS」募集要項発表。2013年近松生誕360年で創設した「さばえ近松文学賞」(6回で終了)を2023年生誕370年に向けて復活いたします。10月1日(土)13時00分~

特別審査員 藤岡陽子トークショー・サイン会
第3回近松賞作品「夢の夢こそ」朗読劇他



3 園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部 2022年後期公開講座 近松講座一近松の作品を味わう

日時 令和4年
10月7日(金)、14日(金)、28日(金)
11月11日(金)、25日(金)

会場 園田学園女子大学(※第4回、もしくは5回は学外研修)
• 阪急神戸線「塚口」駅より南西へ徒歩約10分
• JR「立花」駅・阪急「塚口」駅より阪神バス14系統
「園田学園女子大学前」下車すぐ

主催 園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部

お問い合わせ 園田学園女子大学・
園田学園女子大学短期大学部社会連携推進センター
TEL.06-6429-9908

近松門左衛門の代表的な浄瑠璃作品を取り上げ、先行作品にもふれながら、受講生の皆さんと一緒に本文を読み解いていきたいと思ひます。(全5回)
※第4回もしくは5回は学外研修になります。

4 近松門左衛門作品朗読会 朧月世氏脚本『曾根崎心中』・『葛の葉』

日時 令和4年10月15日(土)14:00~15:00

会場 イサオビル 2階 ホール

- 大阪メトロ四つ橋線「四ツ橋」駅2番出口より徒歩5分

主催 NPO法人なの絵本

入場料 無料

お問い合わせ イサオビル TEL.06-6538-3830
NPO法人なの絵本
nananoehon@gmail.com

朧月世氏の脚本で近松門左衛門作品の『曾根崎心中』を、オリジナルで安倍清明を題材とした『葛の葉』の朗読演劇をお楽しみください。



5 世界一やさしい近松講座 ～近松門左衛門300回忌を控えて～

日時 令和4年10月22日(土) 14:00～15:30

会場 尼崎市総合文化センター7階 第1会議室
・阪神「尼崎」駅より北東へ徒歩5分

主催 天野光の古典芸能を愛する会

入場料 1,000円

お問い合わせ 古典芸能案内人 天野光
artcoordinator2@gmail.com

東洋のシェイクスピアと呼ばれている「近松門左衛門」ですが、その偉業については、あまり知られていません。江戸時代の物語が、現代も上演されている作家のお墓は、ここ尼崎にあります。「近松門左衛門」について学んでみませんか？
【定員18名・メールにて事前申込要】



6 大近松299年祭

日時 令和4年10月23日(日) 11:00～15:00

会場 近松記念館
・阪神バス(尼崎市内線)「近松公園」
下車西へ200メートル
・JR「塚口」駅東口より徒歩約15分

入場 無料

主催 近松祭協賛事業実行委員会(広濟寺・近松記念館(公財)尼崎市文化振興財団・尼崎市)

お問い合わせ 尼崎市文化振興財団
TEL.06-6487-0910

大近松祭は尼崎ゆかりの劇作家、近松門左衛門の遺徳を偲び、その偉業をたたえて、昭和11年から行われている行事です。



7 舞踊「近松音頭」 ～近松翁を偲ぶ～

日時 令和4年10月23日(月)

会場 近松記念館
・阪神バス(尼崎市内線)「近松公園」
下車西へ200メートル
・JR「塚口」駅東口より徒歩約15分

主催 近松祭協賛事業実行委員会(広濟寺・近松記念館(公財)尼崎市文化振興財団・尼崎市)

協賛(後援) 久々知祭、太鼓神興保存会

入場料 無料

お問い合わせ 芝美佐子 TEL.06-6491-6237

偉大な近松翁を偲んで昭和11年より地元久々知に伝わる近松音頭を子々孫々にまで傳承すべく活動しています。10月に行われる近松まつりの時に披露しています。



8 近松記念館駐在所 大近松祭当日近松記念館(資料室) 広濟寺近松墓所の案内ガイド

日時 令和4年10月23日(日) 10:00～16:00

会場 近松記念館
・阪神バス(尼崎市内線)「近松公園」
下車西へ200メートル
・JR「塚口」駅東口より徒歩約15分

主催 近松かたりべ会、近松記念館

入場料 無料

お問い合わせ 浅井啓秀 TEL.090-3031-5532

近松記念館に展示の「近松門左衛門」ゆかりの品々や、広濟寺境内地に眠る近松の墓所(国指定史跡)近松記念公園等。かたりべ会の会員がご案内します。大近松祭のこの日を機会に一度“ちかまつりの里”へお越しください。



9 国立文楽劇場 11月文楽公演

- 第1部 「心中宵庚申 上田村の段/八百屋の段/
道行思ひの短夜」
第2部 「一谷嫩軍記 弥陀六内の段/脇ヶ浜宝引の段/
熊谷桜の段/熊谷陣屋の段」
第3部 「壱坂観音霊験記 沢市内より山の段」**「勲進帳」**

日 時 令和4年11月5日(土)～11月27日(日)
※11月16日(水)休演
第1部/11:00開演 第2部/14:00開演
第3部/18:00開演

会 場 国立文楽劇場
・大阪メトロ 近鉄「日本橋」駅7番出口より東へ徒歩1分

主 催 独立行政法人日本芸術文化振興会

入場料 各部 一等席 5,500円 二等席 3,500円

お問い合わせ 国立劇場チケットセンター(午後10時～午後6時)
<https://ticket.ntj.jac.jp>
TEL.0570-07-9900



心中宵庚申 上田村の段



一谷嫩軍記 熊谷陣屋の段

10 第13回尼崎近松賞地域交流将棋大会 ～三世代の文化交流～

日 時 令和4年11月27日(日) 10:00

会 場 尼崎市中小企業センター1階
・阪神「尼崎」駅より北東へ徒歩5分

主 催 尼崎将棋普及実行委員会

協 賛 (一財)尼信地域振興財団

後 援 兵庫県、尼崎市、尼崎市教育委員会

入場料 大会参加費 2,000円

お問い合わせ 藤内(とうない) TEL.090-8829-5646
「三世代の文化交流」将棋大会です。有段者～初心者五クラス
に分かれておこないます。お電話の申込受付はできません。
メール amashogi88@gmail.com までお願いします。



11 三島ゆり子・橋本祐子トークショー ～曽根崎心中～

日 時 令和4年12月17日(土) 17:00開演

会 場 園田東生涯学習プラザにて
・阪急「園田」駅から北西へ徒歩約16分

主 催 あまがさきコミュニティパートナーズ

お問い合わせ (公財)尼崎市文化振興財団
TEL.06-6487-0910

【出演】三島ゆり子 橋本祐子

12 近松門左衛門・世話物語り 「曽根崎心中」

日 時 令和5年1月22日(日) 14:00開演

会 場 尼崎市総合文化センター
あましんアルカイックホール・オクト
・阪神「尼崎」駅より北東へ徒歩5分

主 催 (公財)尼崎市文化振興財団

入場料 一般 3,500円(指定席) ※未就学児入場不可

お問い合わせ (公財)尼崎市文化振興財団
TEL.06-6487-0910

相愛の若い男女、お初と徳兵衛が命がけて恋を全う
した心中物語

【出演】三島ゆり子 他



三島ゆり子

令和4年2月13日
近松門左衛門世話物語り
「曽根崎心中」公演



講座 & 企画展

近松作品の読書会と講義

日時 毎月2回 第1・3月曜日 13:00~14:30

会場 尼崎市立立花北生涯学習プラザ

・阪急「塚口」駅より北西へ徒歩10分

主催 近松を読む会

受講料 月1,000円 年間12,000円

お問い合わせ 佐藤正子 TEL.06-6421-6075



近松作品を読む同好の士の集まりです。テキストを読みながら大学の先生が解説をしています。5月から近松作品でも人気の「国性爺合戦」に取り組んでいます。会員は25名です。入会はいつでもOKですのでお待ちしております。



上方浮世絵館企画展

近松作品の歌舞伎芝居の浮世絵などを展示

日時 通年開催しています。3か月に一度企画展示が替わります。

11:00~18:00(入館は17:30まで)

月曜休館(ただし、月曜が祝祭日にあたる場合は翌日休館)

会場 上方浮世絵館

・大阪メトロ各線「なんば」駅なんばウォーク
B16番出口より北へ約80m

主催 上方浮世絵館

入場料 一般 500円 小・中学生 300円

お問い合わせ 上方浮世絵館 TEL.06-6211-0303

かつて道頓堀は芝居小屋が集まり、歌舞伎・浄瑠璃等が興行され、まさにブロードウェイの様でした。当時の大坂の香りと日本独自の文化を上方浮世絵を通して感じていただけるよう3か月に一度テーマを替え、展示しています。



近松ナウとは

尼崎市では、本市にゆかりの深い江戸時代の劇作家「近松門左衛門」を文化振興のシンボルとして、「近松のまち・あまがさき」を目指した文化、教育、産業、環境整備など幅広いまちづくりに取り組んでいます。これらの取り組みの一つとして、近松を現代によみがえらせる「近松ナウ事業」を展開させ、尼崎市ゆかりの人物の功績を市民のみならずともにシビックプライドの醸成に取り組んでいます。

「近松ナウ事業」は、近松をテーマとしたさまざまな催しをトータルでPRし、より多くの皆さんに鑑賞、ご参加いただく取り組みで、今年で37回を迎えます。

近松門左衛門

本名、杉森信盛。1653(承応2)年に越前国福井藩の家に生まれ、京都へ移住後に人形浄瑠璃の脚本の執筆を始めます。1683(天和3)年に上演した『世継曾我』が評判となり、劇作家として近松の名が世に知られるようになり、1703(元禄16)年に上演した『曾根崎心中』は近松が手掛けた最初の世話物として大流行しました。1706(宝永3)年に大坂へ移住した後も、『冥途の飛脚』(1711、正徳元年)、『国性爺合戦』(1715、正徳5年)、『心中天網島』(1720、享保5年)など次々と話題作を上演しました。

『女殺油地獄』の上演から3年後の1724(享保9)年に亡くなるまで近松は精力的に執筆活動に取り組み、遺された名作の数々は300年近くたった今でもなお高く評価され、演じ継がれています。